

行動の始まりはいつも駅前広場です。京都府北部の福知山市の表玄関、JR福知山駅。北口の一角に、自民党の谷垣禎一幹事長（衆院京都5区）の現地事務所があります。

なくそう 戦争法

自民幹事長のお膝元で行動

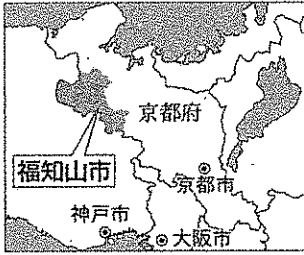
京都・福知山

「私たちの宣伝が聞こえぬ距離です。ちょっとでも谷垣さんを批判すると、警察が飛んで来る。だから、しっかりと国民の声を聞けといたい」と奥井正義さん(61)は言います。福知山地方労働組合協議会(福知山地労協)京都総評(加盟)の議長を務めています。

安倍自公政権の戦争法強行から3カ月たった19日も、駅前に15の労働組合と民主団体から70人が集まり、集会後、デモ行進し、市民にアピールしました。

2児連れてデモ

小学5年生と4歳の女兒を育てる母親がマイクを握り、「戦争法が強行されてショックを受けましたが、法律は国会で廃止できると知りました。投票に行きましょ」とよびかける。拍手と歓声がわきあがりました。



「黙っているときじゃない、何かアクションを起こさないと」との市民の意思表示です。9月6日に

戦死者に思いはせ 連合労組と学習会

「沈黙するときじゃない」



デモ行進で市民にアピールする人たちは19日、京都府福知山市



桐村正昭住職

230人が参加して市民大集会を開いた「福知山アクション」の代表呼びかけ人を引き受けた桐村正昭さん(60)は指摘します。市内にある古刹(こきやう)、福性寺の住職です。

「あの大战で檀家の方々が位牌(いはい)になって福知山に戻ってこられたと聞いています。戦死者の遺骨も帰ってきません」

「いままた『一億総活躍社会』を掲げる安倍首相の強硬姿勢が暗い時代と重なります。その一方で、共産党の志位和夫委員長の『国民連合政府』提案は、『戦争しない国』を求める国民の願いにかなったもので

陸自の駐屯地で

陸上自衛隊駐屯地がある同市。日中戦争時は、南京を占領した陸軍の連隊が駐屯していました。

今年6月、「許さない戦争する国」への「子どもたち・若者を戦場に送らない」のスローガンを掲げて、福知山地労協、連合福知山、市内の長田野工業団地の労働組合でつくる長田野連協の3団体が学習会を開きました。組織の違いを超えた労働者の共同です。

「この地域やからこそ、できたのではないか」というのは連合労組の関係者。「働く仲間にとって共通する問題で、一緒にやりましょ」とそれはちょっと無理や」と率直に意見交換するのがいいと思う」と話します。

「福知山アクション」は、「戦争法の廃止を求める2000万署名」を、有権者の3割、2万人から集めることをめざします。

奥井さんは力を込めて語ります。「自衛隊基地がある交通の要衝の地、福知山には軍事にかかわる仕事をしている仲間もいます。私たちは、戦争法を廃止する、立憲主義を取り戻す、この国民的大義に立ち、共同をさらに前進させたい」

(名越正治)

12/31 旗